

令和2年度 研究授業(校内研修会)の取組

1. 研究発表会(校内研修会) 9月25日(金)

(1) 学年や単元名、指導者

学年		単元名	指導者
単式	2年	図を使って考えよう(2)	細見有美 橋本直樹
複式	3年	長さ	甲泰行 橋本直樹
	4年	小数	
複式	5年	どんな計算になるのかな(5年)	山崎文 橋本直樹
	6年	どんな計算になるのかな(6年)	

【講師】 奈良女子大学附属小学校 教諭 河田 慎太郎 先生

(2) 授業や事後研(授業検討会)の様子



2年生



中学年



高学年



この研究が始まって昨年まで、ほぼ毎年市内外に向けて授業公開を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「第1回校内研修会(5月)」と「第2回公開校内研修会(6月)」は中止に、「算数科教育研究発表会(9月)」は「算数科教育研究発表会(校内研修会)」として9月25日(金)に実施した。今回は校内の教職員のための校内研修会として位置づけ、講師に奈良女子大学附属小学校の河田慎太郎先生をお招きし、3本の公開授業(2年、3・4年、5・6年)を行った。その後、3本の授業それぞれの検討会を行い、最後に河田先生からのご講話をいただいた。

(3) 授業検討会より

〈低学年〉

- ・「おたずね」のバリエーション→子どもの発想しないような
- ・適用題(てきようだい)に時間をとり、話し合う時間をとってよい

〈中学年〉

- ・線分図も大切だけど2人の話し合いに持っていく
- ・適用題までいく(短い時間でも)

〈高学年〉

- ・全員で□1問題を解いたほうがいい
⇒分業制がないかも(ア)(イ)(ウ)を分けないほうがいい
- ・(ひとり学習で)自信が持てたら、もう少し発表したりおたずねしたりできる 等



2. 授業研修会（校内研修会 来年度に向けて） 2月4日（木）

（1）中学年の研究授業 単元名、指導者

学年	単元名	指導者
複式	3年	ひきざん(1)
	4年	どんな計算になるのかな(1)
		甲 泰行 橋本直樹

【講師】 阪神算数科指導委員 つつじが丘小学校 主幹教諭 西浦健司 先生

（2）授業や事後研（授業検討会）の様子



3学期に阪神算数科指導員の西浦健司先生をお招きし、中学年の公開授業を行った。授業検討会では、「教師の出場」「板書に残していく」ことを柱に、中学年の目標である「子どもがすすめる算数科ガイド学習」について深めていった。最後に西浦先生から指導助言をいただき、算数のガイド学習で大切にしたいことや次年度に向けての方向性を共通理解し深めることができた。

（3）授業検討会より

- ・子どもの話したことを教師が解説してしまうと、子どもたちは教師を頼ってしまう。
- ・出場（でば）だと感じれば、教師がおたずねを投げかける。その後、子ども達のガイド学習の様子を見守っていくことも大切。
- ・書くことが大切になってくる。書かせることを続けていく。（算数や他教科、朝の会等）
⇒ひとり学習も書くための取組
- ・教材研究を十分に行い、活動の中心を見定める。

3. 授業研修会（校内研修会） 3学期 2年生算数、高学年算数

（1）学年や単元名、指導者

学年	単元名	指導者
単式	2年	図を使って考えよう(2)
	5年	どんな計算になるのかな(5年)
複式	6年	どんな計算になるのかな(6年)
		山崎 丈 橋本直樹

（2）活動の様子



2年生



高学年

(3) 事後研修会より

<2年生>

- ・前時で学習したことが掲示されているので、子どもが説明するとき、掲示物を使って前時で習ったことを説明していた。
- ・板書にかいた大切なこと（黄色のチョーク）をノートにもかく

<高学年>

- ・掲示物（前時での学習したもの）が欲しい。それがあれば、前時で習ったことを使って説明することができる。
- ・朝の時点でひとり学習を確認し、不十分であれば支援を行い、自信を持って学習に取り組ませたい。
- ・イメージがつかみにくい場合の支援が必要。全体を1と考えることが分かりにくい時は、具体物を用意しておく。
- ・簡単に答えを教えずにおたずねで解決していこうとする姿勢で取り組んでいる。

等